

アツくておもしろい、若手農家が糸島で活躍中です！

糸島の農業を元気に

若手ファーマーズの

古重カ

NO.98



「どこが販売しやすいか」を考え糸島での就農を選びました。販売の工夫のしがいがあることと、収益性が高いと感じられてトマトを選びました。

糸島市波多江

しのざき しんたろう

篠崎 晋太郎さん (38)

◆農業経営の内容を教えてください

糸島市池田でハウスを借りて礫耕トマトを生産していましたが、7月から青年等就農支援資金を活用して有田に新たな施設の取得を進めます。

新たなハウスでは土耕栽培を計画しています。

◆就農のきっかけは？

就農以前はIT関係の企業に努めており、転勤で福岡市にきました。

農業に興味を持ったのは、物を作る喜びを感じられると思ったからです

農業は頑張った分だけ確実に戻ってきますし、目に見える。そこが会社員との大きな違いです。

筑紫野市の農業大学校で1年間、農業の基礎とトマト栽培を学びました。

その時の恩師2人には現在も病虫害防除や品種の選択などでアドバイスを受けています。

栽培全般については、礫耕トマト部会の先輩方の方法を真似て栽培しています。

◆なぜ、糸島での就農を選びましたか？

大消費地の福岡市に隣接していること、伊都菜彩の存在も魅力ですし、糸島の農家の方は生産にとっても力を入れていますので、部会で栽培技術を学べるのではないかと考えました。

◆心掛けていることは？

ロスを極限まで減らすことを心掛けています。

販売先を多くし、通常出せない規格外の商品も必要とする店を探し出して販売しています。

販売方法から農業にアプローチする事で経営を安定させることができるのではないかと、また、農業のICT化が始まっており、自分のキャリアも活かせるのではないかと考えています。

◆将来の抱負は？

新しいハウスの近くに加工場を作りたいと思っていますし、栽培は土耕なので、糖度を高める「水切り」栽培などにもチャレンジしたいと考えています。

2年目は東京都出身で、糸島で就農して
今月は東京都出身で、糸島で就農して
2年目の篠崎晋太郎さんを紹介します。

青年部が田植えイベント

6月27日(日)

青年部普通作専門部(吉住知穂専門部長)は、一般消費者を対象に田植えイベント「第8回きちゃんなっせい2021(大原正誠実行委員長)」を開き、親子連れ等約60人が参加しました。

同青年部オリジナルヒーロー「コメンジャー」が登場し、苗の植え方を実演。

参加者はコメンジャーと青年部員に指導を受け、昔ながらの手植えでもち米(ヒヨクモチ)の苗を田んぼ約5畝に植えました。



田植えを指導する大原正誠実行委員長

参加者は「田植えは初めて体験しました。大変貴重な経験になりました」と、泥だらけになりながら笑顔を見せました。